

「環境と景観のまちづくり」への取り組み

加西市は、2005年11月に近畿の自治体初のバイオスタウン構想を策定しました。そして、昨年は全国市町村初のエコアクション21環境認証も取得することができました。

今、加西市は、環境先進市を目指して、「環境と景観のまちづくり」を進めています。

BDF事業

BDFとは

バイオ・ディーゼル・フューエル(以下BDF)は、植物由来のディーゼル燃料で、石油に代わる新しいエネルギー源として注目されています。菜種油など再生可能な植物由来のBDFには、ガソリンや軽油よりも安く、かつ、CO₂(二酸化炭素)の排出を削減できるという環境面の優れた特性があります。

廃食用油の回収

平成19年9月から賀茂校区を手はじめに、一般家庭からの廃食用油の回収を実施しています。回収方法は、月1回各町公民館またはゴミターミナルに置かれた容器(ポリタンク)で受け入れ、午後容器を回収しています。ご協力により月平均140リットルを集めることができました。

今後は、他の校区やスーパーなどにも回収容器を設置し、市内全域に拡大して、より多くの市民の皆様にもリサイクル(循環)の輪に参加していただきたいと考えています。

廃食用油リサイクルセンター開所!

廃食用油リサイクルセンターは、北条鉄道(株)北条町駅車庫内に設置され、この4月27日より稼働しました。

BDF製造装置の導入費用は、日本サムソン(株)のCSR(企業の社会的責任)活動の一環として、同社より資金提供を受けました。

事業運営は、公募により、マルタ産業(株)(石油販売業、山下町)が担当することになりました。

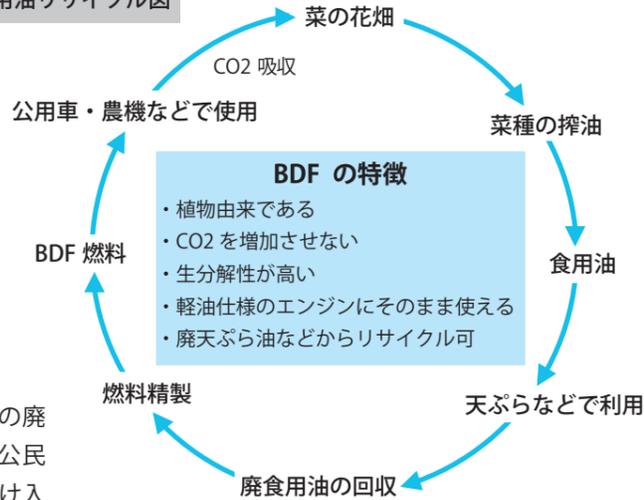
市民の協力により廃食用油を集め、かつ税金を使わずに施設を整備し、運営も民間に任せる官民連携(PPP)によって、加西市内での大きな資源循環を構築することができました。

バイオマス事業とは

ひとこと言えば、今まで捨てていた地域の有機資源を活用することです。ごみや廃棄物など、従来は税金を遣い、エネルギーも消費して、焼却や埋め立て処分してきたものを資源として見直し、活用しようというものです。

40~50年程前まで、日本の農山村では、環境にやさしい生活が伝統的に営まれていました。大量生産・大量消費・大量廃棄という私たちの生活スタイルを見直し、自然や環境に感謝し、皆で力を合わせ、地域や環境を守っていくことで、これまで失われてきた日本の心やふるさとの誇りを取り戻すきっかけともなるのではないのでしょうか。

廃食用油リサイクル図



BDFの特徴

- ・植物由来である
- ・CO₂を増加させない
- ・生分解性が高い
- ・軽油仕様のエンジンにそのまま使える
- ・廃天ぷら油などからリサイクル可



廃食用油の回収(賀茂校区)



北条町駅車庫内に設置されたBDF製造装置



回収された廃食用油を精製タンクに注ぎ込む

加西市からの出向職員の報告!

農林水産省 大臣官房 環境バイオマス政策課 田中 忠彦(27)



今、バイオ燃料が熱い!面白い!

今、「バイオ燃料」ほど熱く、面白いものはないです。「バイオ燃料」と言っても、基本的にはお酒や焼酎を作ることと同じ。でも、今まで捨てられていたような稲わらや規格外農産物を利用して車が走ります。

食べ物だけでなく、車の燃料まで日本の農林水産業が支える。そんな未来が見えてきました。

私は、平成19年4月より2年間、国と市町村の人事交流として加西市から農林水産省へ出向し、農林水産分野におけるバイオマス利活用に関係する仕事をしています。

加西市は、兵庫県内はもとより近畿初のバイオスタウン構想を公表した自治体であり、環境施策や資源の有効利用をリードしている自治体として注目されています。皆様ご承知のとおり、廃食用油を利用したバイオディーゼル燃料が市公用車などに利用されているところです。そんな加西市にとって、どんな形がより良いバイオマス利活用になるのかを考えながら日々奮闘しています。

昨年7月より私は、バイオマス利活用として注目を集めている「バイオ燃料(バイオエタノール、バイオディーゼル燃料、木質ペレット等)」に関する法律を制定する業務に携わりました。

法律の内容は、バイオ燃料の原材料であるお米や稲わらや家畜ふん尿を取り扱う農林漁業者とバイオ燃料製造業者の共同した取り組みやバイオ燃料の研究開発を支援するという内容です。本法案は、本年2月15日に閣議決定され、4月24日に衆議院通過、現在は参議院で審議中です。

加西市のバイオマス事業

今回スタートしたBDF事業の他、食品廃棄物から家畜飼料を製造するエコフィード事業、竹や木の炭化事業などがあり、いずれも夏にもスタートする予定です。

加西市では、食糧危機を誘発するようなトウモロコシ等の穀物を原料とするバイオマス事業は一切行わず、大学などの協力も得て、これまで廃棄物として捨てられていた資源を活用する形での、バイオエタノールの研究にも取り組みたいと考えています。

これからも新しいことにチャレンジし、官民連携と市民参画で成果を上げ、更なる「環境と景観のまちづくり」に取り組んでいきます。

私は、法案の作成にあたって、次の三点に努めました。

- ① 過去の類似法令における支援の仕組みを調査し、あらゆる既存法令との整合性を図るよう努めました。
 - ② 法律の条文は格調高く、解釈が割れないような厳格な文章にする必要があり、どんな日本語でも自由に使用できるわけではないので、法律に使用できる法令用語を整理しました。
 - ③ 政府提出法案は、内閣法制局というところで、その内容について相当厳しい審査を行うので、法制局への説明資料を作成しました。
- この仕事の中で、立案から、政府内の調整、与野党との調整、国会対応などの様々な業務に携わり、激動の一年を過ごしました。

日本でのバイオ燃料に関する取り組みは、まだまだ途上ですが、地域の協力や研究開発が進めば、農林水産業をはじめとする地域産業の活性化、二酸化炭素の排出抑制とリサイクル社会の実現という環境対策、エネルギーの供給源の多様化に大きく貢献できると期待しています。

このため、現在は、この法律案の内容や関連予算等についての周知を図るために「食料と競合しない日本型バイオ燃料生産拡大に向けた対話集会」を行い、私はその事務局をしています。これらの政策の実施によって、日本でのバイオ燃料の取り組みがさらに広がることを期待しています。

国での仕事は、政策の大きな枠組みの検討から、私たち国民一人一人の生活までを、広く深く考えながら行っています。私の経験が、国全体におけるバイオマス利活用をはじめ、加西市にも役立つものになるように、2年目もしっかりと研鑽を積みみたいと思っています。

リサイクルセンター「名称」募集!

人にも地球環境にも優しい、親しみの持てる名称をお待ちしています。ふるってご応募ください。

募集期間: 5/30(金)まで

応募方法: 所定の応募用紙、もしくは、官製はがき、封書、ファックス、電子メール等で下記申込先まで。ひとり何点でもご応募いただけます。

発表: 決定された新名称は、市広報紙、ホームページ等を通じて発表します。

【問合・申込先】

〒675-2395 加西市北条町横尾1000番地
生活環境部 環境創造課 バイオマス担当
☎④8716 FAX④6269
E-mail: kankyo@city.kasai.hyogo.jp